

国語 第5学年 意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第5学年に載っている書くことの教材。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（12月）による。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（B(1)ウ・カ）と言語活動（B(2)ア）を扱う、意見を書く単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、身の回りの話題について自分の主張を決め、理由と根拠になる事実を区別して挙げ、予想される反論にも答えた意見文を書ける。そのうえで友達と意見文を読み合い、主張をどこに置いたか、理由をどの順に並べたか、反論をどう扱ったかといった構成や展開の観点で感想や意見を伝え、自分の文章のよいところを、友達の言葉を手がかりに具体的に言えるようになる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)オ	オ 思考に関わる語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語句と語句との関係、語句の構成や変化について理解し、語彙を豊かにすること。また、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使うこと。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)カ	カ 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けること。
〔第5学年及び第6学年〕〔知識及び技能〕(1)カ	カ 文の中での語句の係り方や語順、文と文との接続の関係、話や文章の構成や展開、話や文章の種類とその特徴について理解すること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)ウ	ウ 目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)ア	ア 目的や意図に応じて、感じたことや考えたことなどから書くことを選び、集めた材料を分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)イ	イ 筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(1)オ	オ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整えること。
〔第5学年及び第6学年〕B書くこと(2)ア	ア 事象を説明したり意見を述べたりするなど、考えたことや伝えたいことを書く活動。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(2)	(2) 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。
〔第5学年及び第6学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(i)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(5)	(5) 第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「B書くこと」に関する指導については、第1学年及び第2学年では年間100単位時間程度、第3学年及び第4学年では年間85単位時間程度、第5学年及び第6学年では年間55単位時間程度を配当すること。その際、実際に文章を書く活動になるべく多くすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りが無いよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)ウ	ウ 公正かつ適切に判断する能力や態度を育てるのに役立つこと。

単元の目標

思考に関わる語句の量を増し、語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して語や語句を使うとともに、文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解する（(1)オ・カ）。身の回りの話題について、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して意見文を書き、文

章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付ける（B(1)ウ・カ）。言葉がもつよさを認識し、思いや考えを進んで伝え合おうとする（学年の目標(3)）。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。（(1)オ） ②文章の構成や展開、文章の種類とその特徴について理解している。（(1)カ）	①「書くこと」において、目的や意図に応じて、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） ②「書くこと」において、文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。（B(1)カ）	①自分の主張が読む人に伝わるかを粘り強く確かめ、学習の見通しをもって、意見文を書いて読み合おうとしている。

単元の流れ

全6時間（書くこと6時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（5年）が、この単元を書くこと6時間を配当している（12月）。次ごとの内訳（1・4・1）はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。学習指導要領は第5学年及び第6学年の書くことに年間55単位時間程度を配当するとしている（第3の1(5)）。国語の標準授業時数は第5学年で年間175単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○ほかの人の意見を読んだり聞いたりして、なるほどと思った経験や、違う考えをもった経験を出し合う。 ○学習課題「読む人が納得する意見文を書き、読み合ってよいところを見付けよう」を立て、学習計画を立てる。	態①（発言・ノート）
第2次	2	○学校や地域の生活の中から話題を集め、一つ選んで主張を一文で書く。 ○主張の理由と、理由の根拠になる事実（見たこと・調べたこと・数や記録）を書き出す。	
	3	○グループで主張と理由・根拠を読み合い、説得力を感じた所と補った方がよい所を伝え合う。 ○予想される反論を考え、必要な事実を本やインターネットで調べ足す。	態①（書き出しシート・観察）
	4	○主張・理由と根拠・予想される反論とそれへの考え・まとめを、どの順で書くか考えて構成メモを作る。 ○主張を初めに書く形、終わりに書く形、両方に書く形を比べ、自分の文章に合う形を選ぶ。	知②（構成メモ）
	5	○構成メモを基に意見文を書く。主張・理由・反論を表す言葉を使い分ける。 ○事実と意見を区別して書いているかを読み返し、文章を整える。	知①（意見文） 思①（意見文）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第3次	6 （本 時）	○意見文を読み合い、構成や展開について感想や意見を伝え、自分の文章のよいところを見付ける。 ○単元の学習を振り返る。	思②（読み合いカード・ノート） 態①（振り返り）



本時の案

本時の目標：友達と意見文を読み合い、主張の位置や理由の順序、反論の扱い方など、文章全体の構成や展開について感想や意見を伝え合って、自分の文章のよいところを見付けることができる。(B(1)カ)

段階	学習活動 (○主な発問) ・予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時に書いた意見文と構成メモを手元に置き、単元の学習課題を確かめる。 2 本時のめあてをつかむ。 ○「読む人が納得する意見文には、構成や展開にどんな工夫がありましたか」 【めあて】構成や展開に目を向けて意見文を読み合い、自分の文章のよいところを見付けよう。 3 感想や意見を伝える観点を確かめる。 〈予想される児童の反応〉 ・主張が初めにあると、何について書くのかがすぐ分かる。 ・理由を二つ挙げて、それぞれに根拠の事実を書いた。 ・反対の考えを先に書いて、それに答えている。	・第4時に確かめた構成の観点（主張の位置・理由と根拠の順序・予想される反論とそれへの考え・まとめ）を短冊にして掲示し、読み合いの観点にする。 ・「よかった」「分かりやすい」だけで終わらないよう、どの観点的、どの段落かを添えて伝えることを確かめる。
展開 (分)	4 三人か四人のグループで、意見文を順に読み、読み合いカードに書く。 ○「主張に納得できたのは、どの段落の、どんな書き方があったからですか」 ○「もっと納得できるようにするには、どこをどう直すとよいですか」 5 カードを基に、書き手に感想や意見を伝える。書き手は質問に答え、友達の意見で気付いたことをメモする。 6 全体で、友達の意見文の構成や展開のよいところを紹介し合う。 〈予想される児童の反応〉 ・初めと終わりの両方に主張があるので、言いたいことがはっきりしている。 ・反対の考えを認めてから自分の考えに戻っているのが納得できた。 ・理由の二つ目には根拠の事実がないので、調べたことを足すとよい。 ・自分では気付かなかったが、数を使った根拠がよいと言われた。	・読み合いカードは「納得できた所（段落とわけ）」「質問」「もっとよくなる所」の三つの欄にし、よいところから伝える順にする。 ・書き手はまず黙って聞き、その後で質問に答える順にして、主張の正しさの言い合いにならないようにする。 ・言葉が出ない子には、観点的の短冊を一枚ずつ示し、「主張はどこにあったか」から聞く。 ・意見文が仕上がっていない子は、構成メモを読んでもらい、主張と理由の対応について意見をもらう。 ・端末で意見文を共有している場合は、コメント機能で段落の番号を添えて書き込ませる。 ・全体の紹介では、構成の違う二つの文章を取り上げ、それぞれのよさを比べる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	7 友達の感想や意見を基に、自分の文章のよいところと、今度書く時にいかしたいことをノートに書く。 (型)「わたしの意見文のよいところは、…段落の…という書き方です。…さんから…と言われて気付きました。今度書く時は…をいかしたいです」 8 単元の学習を振り返る。	・「よいところ」は、友達の言葉を引いて、構成や展開に関わる所を一つ以上挙げさせる。 ・振り返りは「構成や展開で工夫したこと」「今度意見文を書く時にいかしたいこと」の二つで書かせる。 ・学習した構成の工夫は、社会科や総合的な学習の時間で意見を書く時にも使えることを伝える。 ◎思② 文章全体の構成や展開が明確になっているかなど、文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けている。(読み合いカード・ノート) ◎態①(振り返り)

板書の構造(縦書き・右から左へ)

右端に日付、題名、単元の学習課題、本時のめあて。その左に、読み合いの観点(主張の位置・理由と根拠の順序・予想される反論とそれへの考え・まとめ)を四枚の短冊で並べる。中央に、全体で紹介した二つの意見文の構成を、段落ごとの短冊(主張・理由一・理由二・反論とそれへの考え・まとめ)で右から順に並べ、二つの文章を上段と下段に置いて構成の違いが見えるようにする。その左に、子どもが見付けたよいところ(初めと終わりに主張がある・反論に答えている・数を根拠にしている など)を観点ごとに書き足す。左端に、自分の文章のよいところを書く型と、振り返りの観点二つ。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、主張が途中で変わる(初めは「～した方がよい」、終わりは「～はよくない」など)。手当ては、主張を一文で書いた短冊を構成メモの一番上に貼り、書いている間も見えるようにすること。二つ目、根拠に「楽しいから」「みんなそう思うから」など自分の感想を書き、事実との区別が付かない。手当ては、根拠の欄を「見たこと・調べたこと・数や記録」に限り、感想や意見は別の欄に書かせること(B(1)ウ)。三つ目、反論を書くと主張が弱くなると考えて書かない、または反論を書いたまま答えない。手当ては、「確かに～。しかし～」の形で、反論を認めたうえで自分の考えに戻る書き方を、先生が作った短い例で示すこと。四つ目、読み合いで「分かりやすかった」「よかった」で終わる。手当ては、構成の観点を短冊にして掲示し、「どの観点の、どの段落か」を添えて言う決まりにすること(B(1)カ)。五つ目、友達から意見をもらおうと、文章を否定されたと受け取る。手当ては、読み合いカードの最初の欄を「納得できた所」にし、よいところから伝える順を守らせること。

プリントの案

主張・理由・根拠の書き出しシート

上に主張を一文で書く枠。その下に理由を書く枠を二つ並べ、それぞれの横に「根拠になる事実(見たこと・調べたこと・数や記録)」の枠と、調べた本や資料の名前を書く欄。いちばん下に「自分の感想や意見」の枠を分けて置く。B(1)ウの事実と意見の区別に合わせた。

構成メモの短冊

「主張」「理由一と根拠」「理由二と根拠」「予想される反論とそれへの考え」「まとめ（主張をもう一度）」の五枚。並べかえて、主張を初めに置く形・終わりに置く形・両方に置く形を比べる。〔知識及び技能〕(1)カの文章の構成や展開に合わせた。

考えを表す言葉の一覧

主張（～と考える・～するべきだ）、理由（なぜなら・その理由は）、根拠（例えば・～によると）、反論を受ける言葉（たしかに～。しかし～）、まとめ（このように・だから）を表にし、使った言葉に印を付ける欄を付ける。〔知識及び技能〕(1)オに合わせた。

読み合いカード（本時）

読んだ相手の名前の欄と、「納得できた所（段落とわけ）」「質問」「もっとよくなる所」の三つの欄。下に、主張の位置・理由と根拠の順序・反論の扱い・まとめの四つの観点を並べ、話題にした観点到丸を付ける。B(1)カに合わせた。

振り返りカード

「自分の文章のよいところ（友達の言葉から）」「構成や展開で工夫したこと」「今度意見文を書く時にいかしたいこと」の三つの枠。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価標準の文末と3観点的の形、「書くこと」などの領域の書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第5学年175）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 5年（Excel）「5年」。単元名「意見文を書いて読み合い、よいところを見つけよう」・教材名・書くこと6時間・12月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/d8b2753f-1cbb-415c-a570-2a2cfa70fbe3/368）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

